

防護柵設置仕様書

(作業順序)

- 1 地拵、植付、防護柵設置を一括契約した場合は、植付に着手する前に必ず防護柵を設置し監督職員の確認を受けなければならない。

(施工方法・配置)

- 2 施工距離は、別紙防護柵（金網等）購入仕様書のとおりとする。
- 3 施工位置は、別紙位置図に示すとおりとする。なお、現地には測量杭またはテープ等で表示をしている。ただし、周囲からの倒木や転石等のおそれがある場合は、事前に適宜対応策を講じ監督職員の確認を受けること。

(支柱の固定)

- 4 風及び積雪等により支柱が傾斜しないようしっかり固定すること。
- 5 支柱の設置間隔の目安は約 2.0～2.5m 毎とするが、現地の状況によって防護柵の強度を勘案しつつ適宜調整すること。ただし、特に力がかかる角支柱や土質が不安定な箇所等には優先的に支柱の設置を行うこと。
- 6 生立木や枯損木は支柱として利用しないこと。
- 7 柵の安定を図るため支柱 2～3 本毎に支持杭及び支持線を設置することとし、支柱と支持線の接続には止金具を用いること。
また、網にかかる張力の方向を勘案したうえで支持杭及び支持線を設置することとし、特に張力がかかる防護柵の角部分に当たる支柱には必ず支持杭及び支持線をとること（別図 2 のとおり）。
- 8 支柱の設置箇所は、凹凸がある場合、網の高さを確保するため、凸部分に設置すること（別図 1 のとおり）。
また、植栽区域より斜面の上部にネットを設置する場合は、傾斜変換し緩やかになった箇所に設置すること。

(網の設置)

- 9 支柱 1 本あたり 5 箇所以上の止金具をもって網を固定すること。
- 10 網の下部には隙間をつくらないう 30cm 程度以上の折返し部を設けること。ただし、簡易門扉を設置した出入口部分は除く。
- 11 上記の折返し部の外側に、地表との隙間を生じないう 約 0.5m 間隔でアンカーピンを打ち込み、折返し部が浮き上がることをないう、適宜の間隔で網の折り目上にもアンカーピンを打ち込むこと（別紙防護柵（金網）仕様書のとおり）。ただし、土質等の条件により人力で簡単に抜ける場所ではアンカーピンは使用せず、強固な根株などへ又釘を打つなど地表との隙間を生じないう適宜対応策を講じること。
- 12 網の最上部に網を保護するため高張力の保護線を設置すること。設置に当たっては、止金具を使用し支柱へ固定すること。
- 13 セパレート式防護柵を用いる場合、上段柵と下段柵の接合に当たっては、約 0.5m 間隔で上段柵の下端ワイヤーを下段柵の上端ワイヤーに絡ませて接合するものとする（別紙防護柵（金網）仕様書のとおり）。

(出入口の設置)

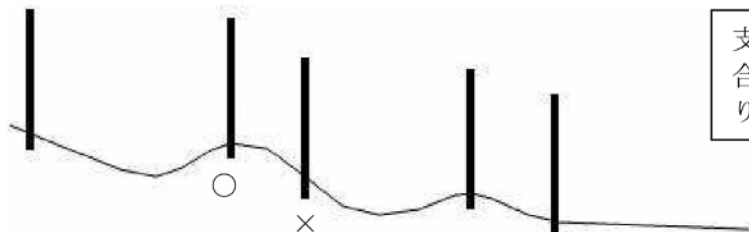
- 14 別紙簡易扉仕様書（金網）のとおり、簡易扉を設置する。
- 15 簡易扉の設置位置が分かるよう任意のマークを表示する。
- 16 簡易扉の設置は、網下部に地表と隙間が生じないようにアンカーピンを打ち込むこと。アンカーピンが適していない場所では、上記 11 に準じて対応すること。
- 17 扉には扉用支柱を設け、支柱下部は防護柵支柱に固定し支柱の上部が開閉するよう作設すること。
- 18 設置位置については、監督職員の指示に従うこと。

(その他)

- 19 その他必要事項については、監督職員の指示に従うこと。

(別図 1)

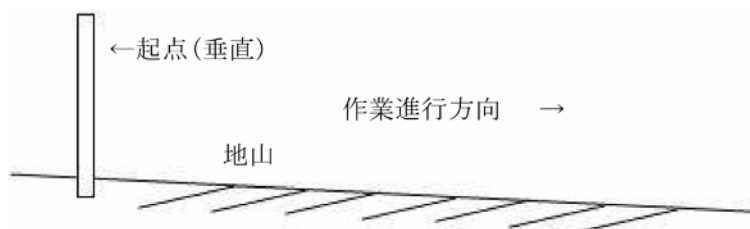
支柱の設置個所



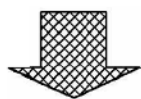
支柱の打込箇所は地山の凹凸がある場合、網の高さを確保するめ、できる限り凸部分に打ち込む方が良い。

(支柱の間隔は 2 ～ 2.5m で)

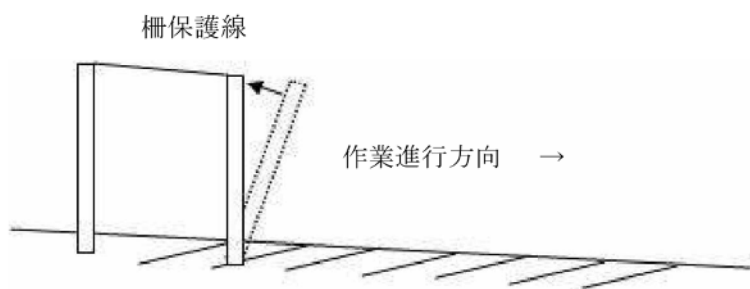
支柱の固定方法



網の設置は斜面上方から下方へ進める方が作業は容易である。



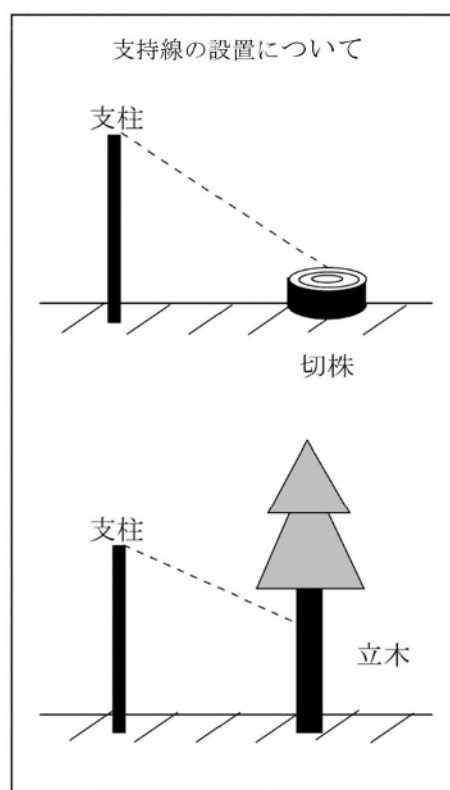
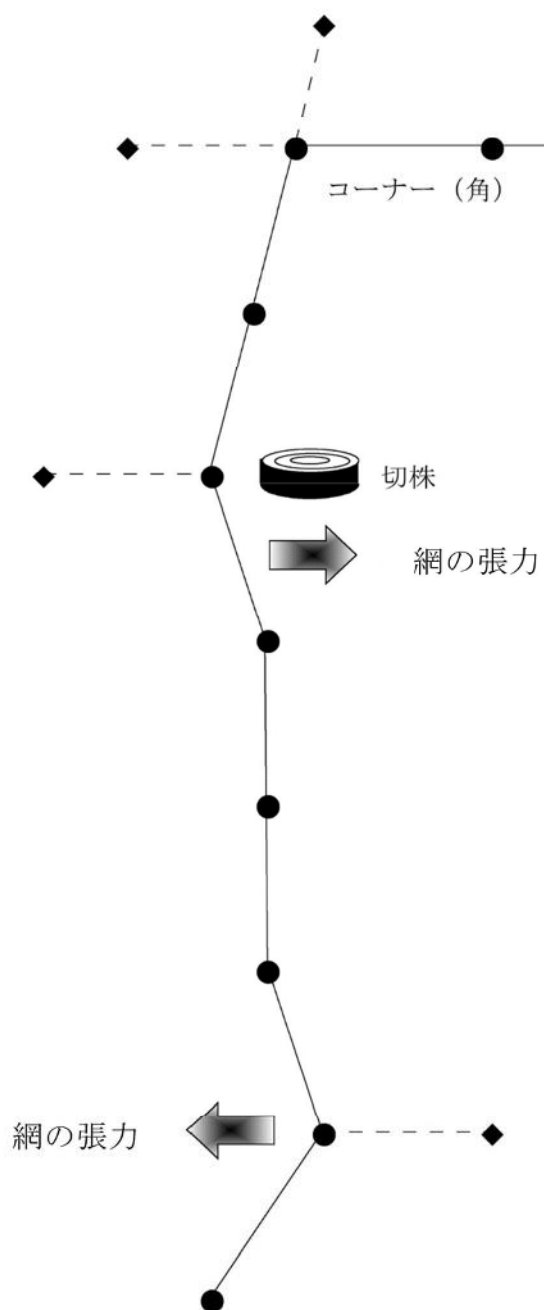
支柱は作業進行 (斜面下方) 方向へ傾けて打ち込む。



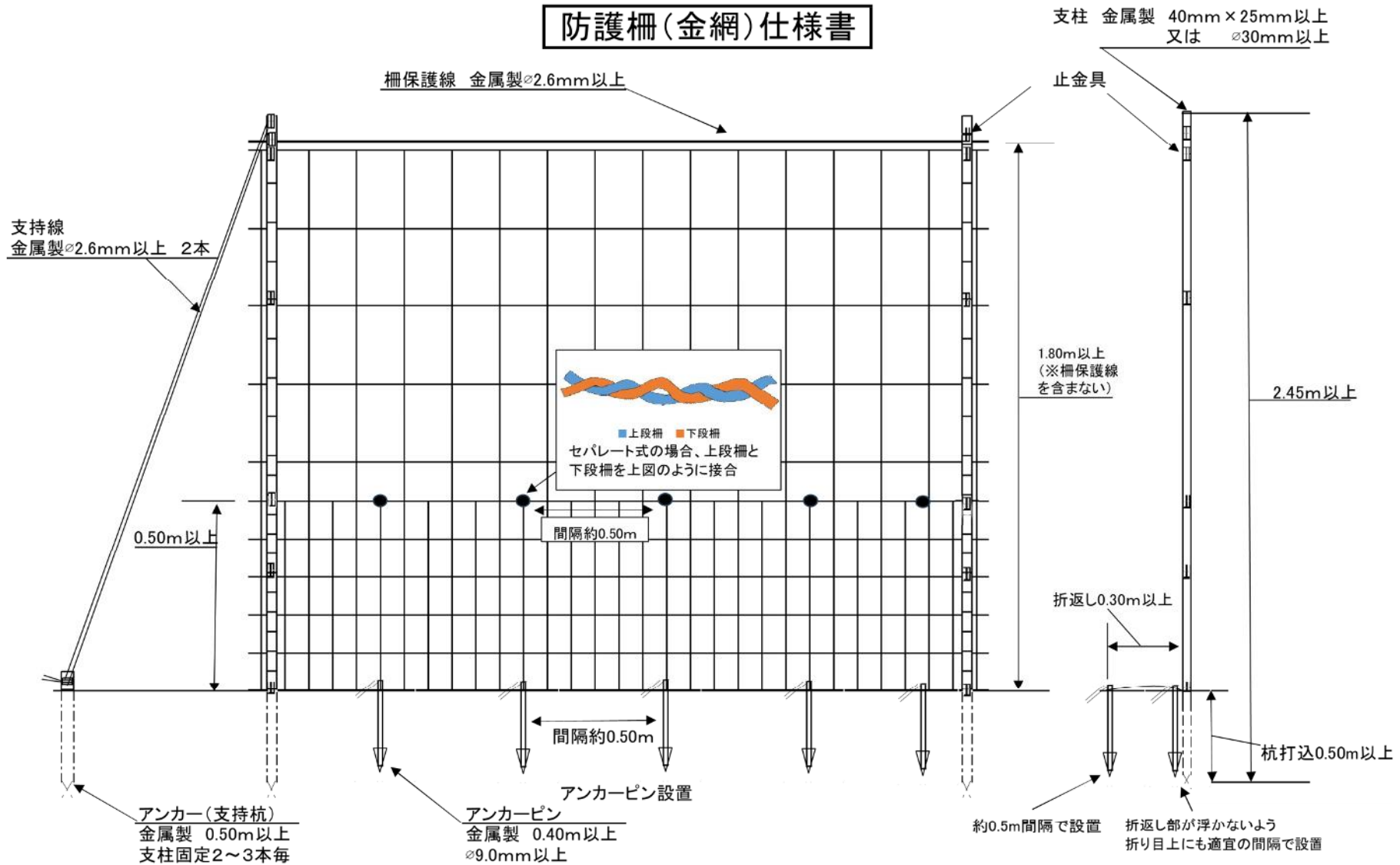
柵保護線の張力により支柱を引き起こし垂直 (最も網が高く) に仕上げる。

(別図 2)

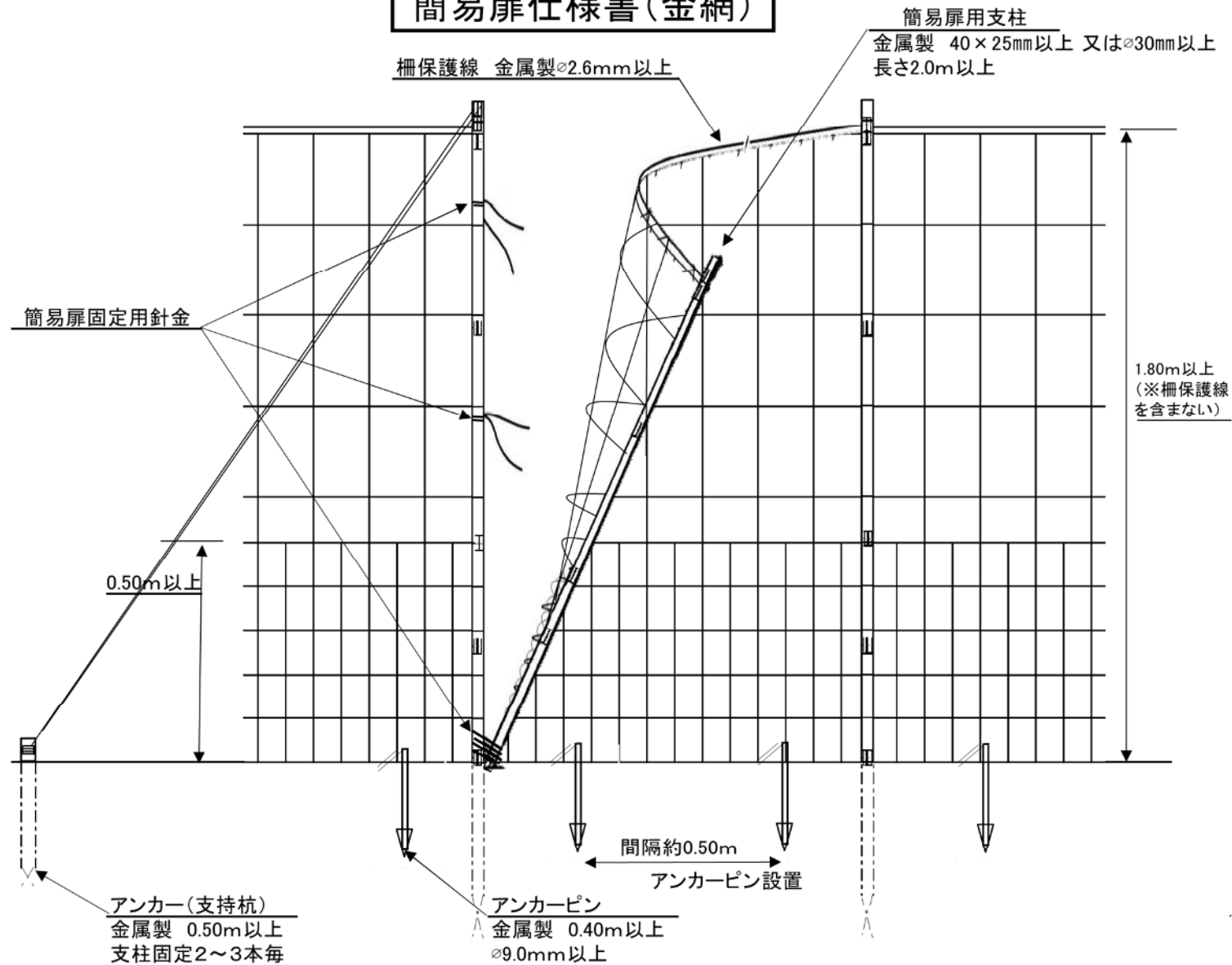
支持線及び支持杭の設置方法



防護柵(金網)仕様書



簡易扉仕様書(金網)



防 護 柵 （ 金 網 等 ） 購 入 仕 様 書

1 防護柵物品の品質及び規格、数量は、次に示すとおりとする。

物品	品質及び規格	数量	備考
侵入防護柵	・ 金属製 防錆（メッキ処理等） ・ 鉄線 φ 2.0mm 以上 ・ 地上部高さ 1,800mm 以上 【地上からの高さ500mm以上部分】 ・ 150mm 目 以下 又は 1 網目 300cm² 以下 【地上からの高さ500mm部分まで】 ・ 「少なくとも 1 辺が 60mm 以下 かつ 1 網目 60cm² 以下」 または 「60mm 目 以下」 【下部外側折込み部】 ・ 長さ 300mm 以上 ・ 「少なくとも 1 辺が 60mm 以下 かつ 1 網目 100cm² 以下」 または 「60mm 目 以下」	550 m	セパレート式 （上下2段）も可
支柱	・ 金属製 防錆（メッキ処理等） ・ 40×25mm 以上 又は φ 30mm 以上 ・ 長さ 2,450mm 以上	245 本	セパレート式も可 2.0～2.5m 毎
止金具	・ 金属製 防錆（メッキ処理等）	1,225 個	柵固定用 1 支柱当たり 5 個
支持杭 （アンカー）	・ アングル型 ・ 金属製 防錆（メッキ処理等） ・ 長さ 500mm 以上 ・ 30×30×2mm 以上	98 本	支柱固定用 約 2.5 本 毎
支持線 （控線）	・ 針金 ・ φ 2.6mm 以上	588 m	支持杭 1 本あたり 約 6m
止金具	・ 金属製 防錆（メッキ処理等）	98 個	支持線固定用 1 支持杭当たり 1 個
※ または			
支持柱 （付属部品含む）	・ 金属製 防錆（メッキ処理等）	98 本	支柱固定用 約 2.5 本 毎
アンカーピン	・ 金属製 防錆（メッキ処理等） ・ φ 9.0mm 以上 ・ 長さ 400mm 以上	1,100 本	約 0.5m 毎
柵保護線	・ 高張力線（金属製） ・ φ 2.6mm 以上	550 m	（柵上部に張る）
止金具	・ 金属製 防錆（メッキ処理等）	245 個	柵保護線固定用 1 支柱当たり 1 個
簡易扉用支柱	・ 金属製 防錆（メッキ処理等） ・ 40×25mm 以上 又は φ 30mm 以上 ・ 長さ 2,000mm 以上	6 本	簡易扉用
止金具	・ 金属製 防錆（メッキ処理等）	36 個	簡易扉用
簡易扉固定用針金	・ 上部、中間部、下部の 3 箇所結束	18 m	簡易扉用 18 箇所分（各 1 m）

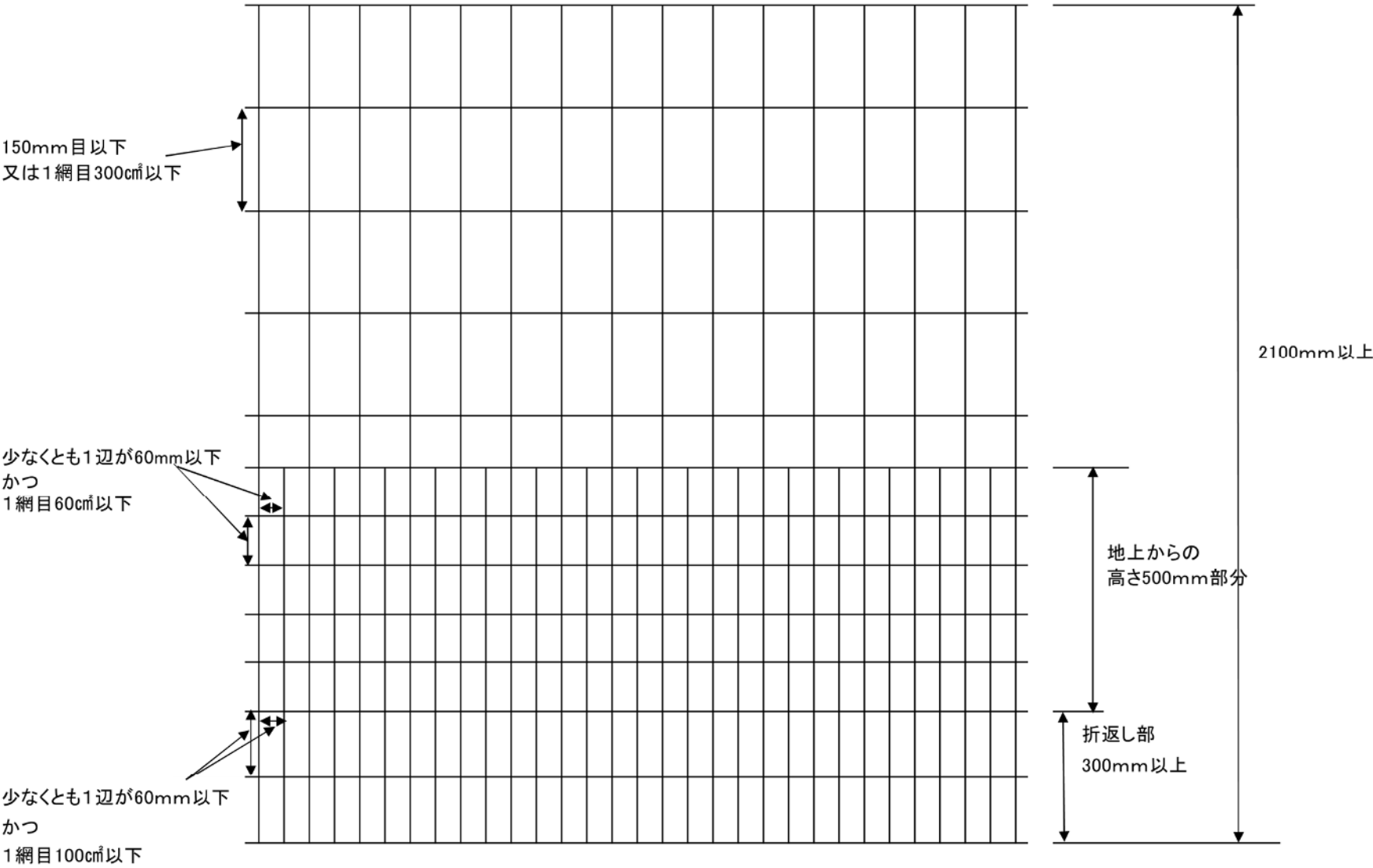
2 支柱は、積雪及び強風等により折損等を生じにくいものを購入すること。

3 物品購入にあたっては、上記 1、2 の条件及びこれと同等の規格及び品質を有するものを購入すること。

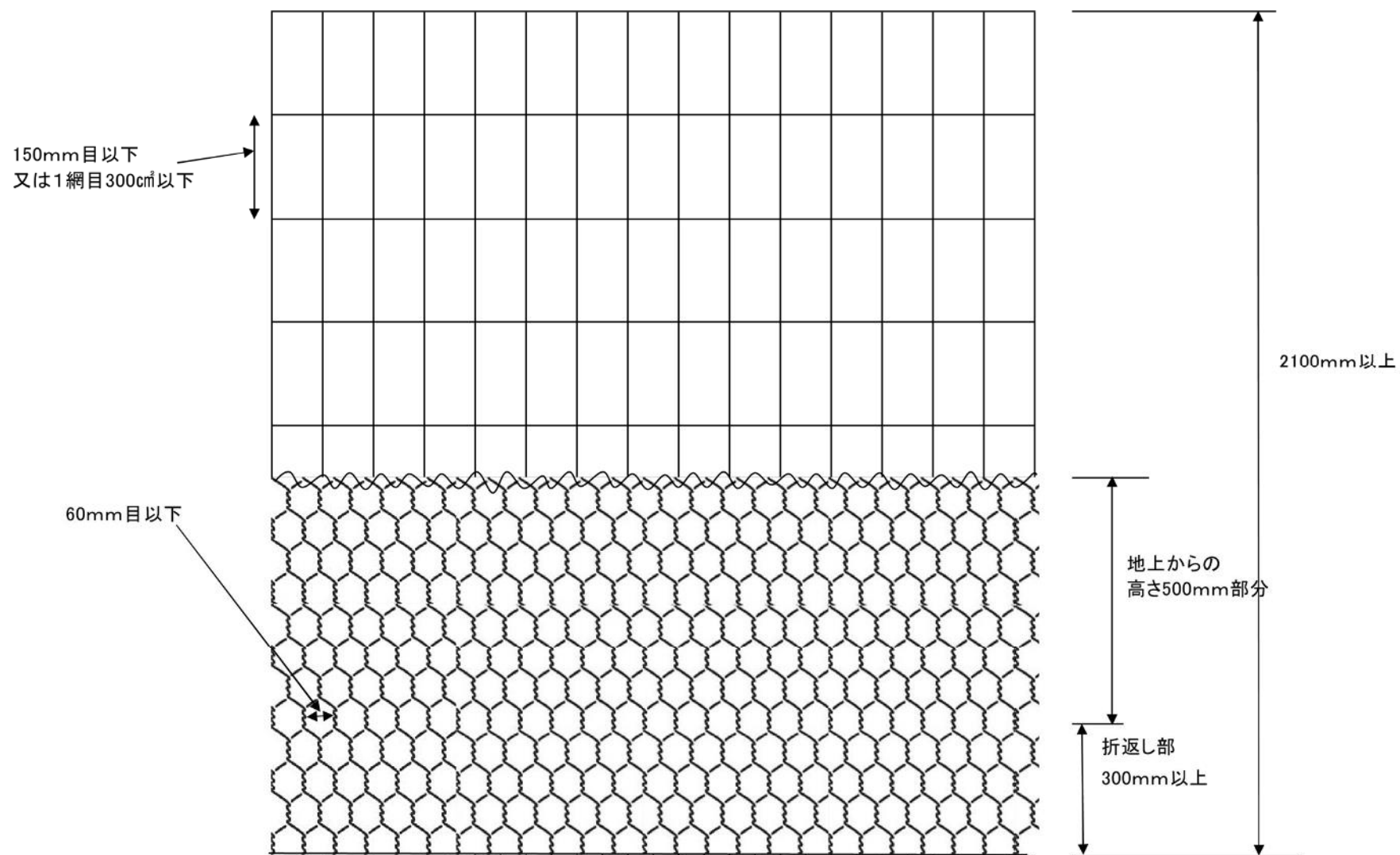
4 物品は指示した規格及び品質のとおり納入されたか監督職員の確認を受けること。なお、納品書類等は監督職員に必ず提出すること。

5 その他必要事項については監督職員の指示によること。

侵入防護柵 仕様例1

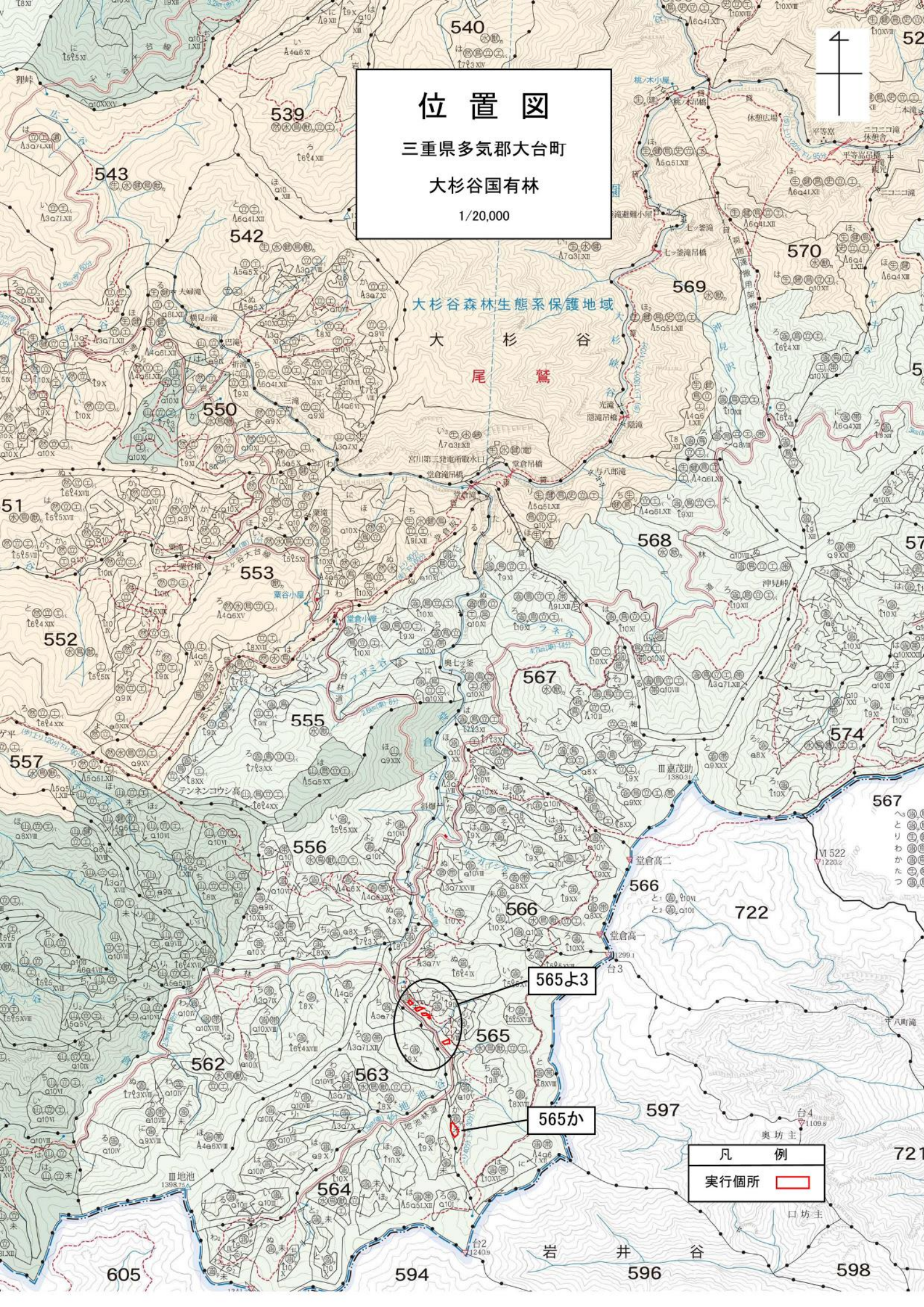


侵入防護柵 仕様例2



特記仕様書

- 1 豚熱（CSF）及びアフリカ豚熱（ASF）対策として、山林での作業用の靴の履き分けや下山時の靴及びタイヤの土落とし等、平時における感染防止対策に協力するとともに、野生いのししの死体発見時には管轄の自治体に速やかに通報すること。
- 2 アフリカ豚熱（ASF）対策として、野生いのししの感染が確認された場合の都道府県が実施する防疫措置に基づき、消毒ポイントにおける消毒の実施や帰宅後の靴底の洗浄消毒を行うこと。また、府県の行う立入制限等の防疫措置を踏まえ、契約約款第 20 条及び第 46 条に基づき事業を一時中止又は解除する可能性がある。



位置図

三重県多気郡大台町

大杉谷国有林

1/20,000

大杉谷森林生態系保護地域

大杉谷

尾鷲

凡例

実行箇所



565よ3

565か

1/5,000

